

令和7年度 内子高等学校 シラバス

教科	家庭	科目	家庭総合	単位数	2単位	学年	2学年
教科書	家庭総合 自立・共生・創造 (東京書籍)		副教材等	家庭科ノート (愛媛県高等学校家庭科教育研究会)			

1 学習の目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を養う。

2 学習の内容

学期	単元・項目	学習の内容	備考
第1学期	第1章 生涯を見通す	<ul style="list-style-type: none"> 自立した生活を営むために、生涯発達の視点からライフステージの特徴と課題を理解する。 生涯を見通して自分のライフスタイルを考えることができるように、様々な生き方について理解する。 私たちが被服を着用するに至った、社会的・文化的背景と被服の多様な機能や特徴について理解する。 被服の機能、素材と管理の知識を応用しながら、目的に合った被服を製作するために、被服が身体の形に合わせてどのように構成されているかを理解する。 	中間 期末 考 査
	第2章 人生をつくる		
	第7章 衣生活をつくる		
第2学期	第9章 経済生活を営む	<ul style="list-style-type: none"> 自立した責任ある消費者として、よりよい意思決定ができるよう、現代の消費生活における意思決定の重要性と情報の活用について理解する。 大きく変化する世界経済の中で家計をマネジメントする力を付けるため、家計と地域経済・国民経済・国際経済のつながりについて理解する。 持続可能なライフスタイルの実現に向けて、身近な生活と環境との関わりについて理解する。 	期 末 考 査
	第10章 持続可能な生活を営む		
第3学期	第4章 超高齢社会を共に生きる	<ul style="list-style-type: none"> 超高齢社会の背景を理解する。 高齢者が生きがいを持って生活するためには、家族や地域によるどのような支援が必要か考える。 誰もが生涯を通して自分の力を生かし、必要に応じて援助を得ながら安心して暮らせる社会に向けて、家族・家庭生活を支える福祉について理解する。 	学 年 末 考 査
	第5章 共に生き、共に支える		

3 評価の規準

【知識・技能】

生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などの基礎的なことについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。

【思考・判断・表現】

生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。

【主体的に学習に取り組む態度】

様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。

4 評価方法

家庭科ノート、レポート、ワークシート、学習プリント、実験・実習レポートなどの評価について、定期考査後に評価します。

5 学習のアドバイス

家庭クラブ活動に積極的に参加しましょう。ホームプロジェクトを通して問題解決能力を身に付け、家庭生活の充実を図りましょう。よりよく生活をするためにはどうすればよいか考え、実践していきましょう。